

## 平成24年度 第1回 府中市高齢者保健福祉計画・ 介護保険事業計画推進協議会会議録

1 日 時 平成24年4月24日（火）午後1時15分～2時20分

2 会 場 市役所北庁舎3階第3会議室

3 出席者 （委員）

鈴木(眞)会長、佐藤副会長、原田委員、近藤委員、能勢委員、鈴木(恂)委員、  
田中委員、松本委員、矢ヶ崎委員、渡邊委員、大山委員、澤田委員、  
村松委員

（事務局）

芦川福祉保健部長、川田福祉保健部次長（兼）高齢者支援課長、  
峯尾地域支援統括担当主幹兼施設担当主幹、  
山田高齢者支援課長補佐兼介護保険担当副主幹、石谷包括ケア担当主査、  
板橋地域支援係長、鈴木福祉相談担当主査、青木地域ネットワーク担当主査、  
山中介護予防担当主査、関根介護保険係長、立浪介護サービス係長、  
田中事業者指導係長、林介護認定係長、高野施設担当主査  
府中市地域包括支援センターよつや苑、府中市地域包括支援センターあさひ  
苑、府中市地域包括支援センターしみずがおか、府中市地域包括支援センタ  
ー泉苑、府中市地域包括支援センター安立園、府中市地域包括支援センタ  
ーかたまち、府中市地域包括支援センターしんまち、府中市地域包括支援セン  
ター緑苑、府中市地域包括支援センターにしふ、府中市地域包括支援センタ  
ーこれまさ、府中市地域包括支援センターみなみ町

4 欠席者 田口委員、竹内委員

5 傍聴者 2名

6 議事前

- (1) 委員の依頼
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員自己紹介
- (4) 事務局紹介
- (5) 会長及び副会長の選出
- (6) 地域密着型サービス指定部会の委員及び部会長・副部会長の選任

## 7 議事事項

- (1) 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進協議会の概要について
- (2) 府中市地域包括支援センターの概要について

## 8 議事内容

- (1) 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進協議会の概要

ア 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進協議会の概要について

資料2、参考3に基づき説明があり了承。

イ 質疑応答、意見等

特になし。

- (2) 府中市地域包括支援センターの概要

ア 府中市地域包括支援センターの概要について、資料3、参考4に基づき説明があり了承。

イ 質疑応答、意見等

意見1 東京都で地域包括支援センターのあり方をメインとした報告書がまもなく出ると思う。その中で、地域包括支援センターが地域包括ケアシステムを作り上げる中心的な役割を果たすということが書かれている。介護保険事業計画の介護保険の普及という断片ではなく、それ以外の人と人とのつながり、そういうものがプラスされて初めて、地域包括ケアシステムというものが出来上がる。地域包括ケアシステムの中核としての役割を果たす地域包括支援センターという位置づけであるので、期待するところが非常に大きい。地域包括支援センターは地域のニーズを最もよく知っているので、是非こういうニーズがあるということを計画に反映させて施策にしてほしいという建設的な提案をいただくことが出来たら、府中市全体の役に立つのではないかと思う。

意見2 地域包括支援センターと地域福祉の推進を担う社会福祉協議会のあり方、役割の整理が、最近、社会福祉協議会として課題となってきた。お互い競合するところと、それから、協力していかなくてはならないところもあると思うが、社会福祉協議会が担う地域福祉の推進と、地域包括支援センターが担う地域包括ケアシステムをどう整理し、かつ、現在の都市化の中で社会福祉協議会が地域福祉の推進をするところとして、今後、独自性を発揮し、社協そのものが存続していくことが出来るのかというようなところまで考えている。府中市社会福祉協議会は現在220～230人の職員がいるが、その大部分が府中市からの指定管理事業の部門にあり、本来の地域福祉の部門に従事している職員はわずか10%程度という状況である。そういう中で、これから府中市社会福祉協議会として独自性を発揮していくにはどうしたらよいか、内部でプロジェクトチームを立ち上げて検討している。基本となる財源が十分でないということもあり、将来どう描いていったらよいか、社会福祉協議会としても大きな

課題だと思っている。地域包括支援センターが発達していくとなると、その分、社会福祉協議会の役割というものも後退していくのかというような危機感を持っている。

意見3 府中市の場合、今回、地域包括ケアシステムに合わせた形で、11箇所の地域包括支援センターが整備された。また、私自身が府中市の居宅事業者介護支援専門員の連絡会の会長を務めているが、現段階、府中市に新規参入されてくる事業者がまだまだある、その先で無くなっていく事業者があるということも含めて、特にフォーマルのサービス以外の、インフォーマルのサービスを今後もっと増設していかなくてはならないと感じている。特に包括ケアシステムについては、我々事業所の側からしても、その連絡にかなり力を注いでいければと思っている。

意見4 事務局名簿の配布をして頂きたい。

意見5 社協の役割が縮小していくという指摘があったが、逆に拡大していくというイメージを持っている。地域包括ケアと社協の行っている地域福祉活動、あるいは、地域組織化活動というのはよく似ているところがあるので、競合関係にあるという認識が成り立ってしまうかという気がするが、そもそも、地域包括ケアを実現する為には、まず、地域のニーズを明らかにするという段取りが必要である。それを解決しないといけない、その解決手法として、社協が得意の地域づくり、地域組織化活動がある。地域包括支援センターというのは、高齢者に限ってではあるが、地域のニーズをかなりよく知っている存在といえる。その情報を集約し、社協に伝えて、社協が地域づくりをしていく際のネタにしていくという構造を作っていくことが大事だと考えている。そういう意味では、地域包括支援センターと社協は、固い結束で結ばれていないといけない関係にある。競合することなく、お互いに役割は拡大し、関係性も強まっていくものでなくてはならない。是非、計画の中でもそのような構造を描き上げることができたらいいと思う。高齢者が増え、そのニーズも顕著なので、高齢者を牽引にし、児童、障害、それ以外の福祉分野も含め、地域全体の総合的な福祉を高めていく、その一つの大きなセクションとして、社協に大きな期待をしている。

意見6 いろんな社協があるかと思う。社協にとって、財政的な基盤の安定が担保されるのであれば、意見5も理解できる。しかし、会費収入、寄付金等くらいしか独自財源がない社協にとって、現在、一番大きな財源となっているのが、行政からの補助金であるが、補助金が年々縮減されてきている。結局、補助金が減れば、人も減り、仕事も減ってくるというような構図になってきている。

### (3) 開催日程について

次回開催については平成24年6月を予定。

以上